

令和7年度三木市立図書館協議会（第2回）会議録

1 開催日程

- (1) 開 会 令和8年1月27日（水）午後2時
- (2) 閉 会 令和8年1月27日（水）午後3時

2 場 所 三木市立中央図書館 1階 視聴覚室

3 議事日程

- 第 1 報告事項 令和7年度図書館事業について
- 第 2 協議事項 令和8年度図書館事業について
- 第 3 協議事項 その他

4 出席者

会 長	長	鍋 島	健 一
会 長 職 務 代 行		藤 原	美 佐 子
委 員		田 中	智 美
委 員		上 村	和 美
委 員		香 月	尚 美
委 員		平 野	直 樹
委 員		寺 口	三 佳

5 欠席者 なし

6 事務局出席者

図 書 館 長	河 端	康
中央図書館主査	辻 本	美 保
青山図書館主任	佐 伯	あ ゆ み
吉川図書館事務専門官	伊 藤	真 紀

7 傍聴者 なし

開 会

会長は、令和7年度第2回三木市立図書館協議会の開会を宣言した。

日程第1 報告事項 令和7年度図書館事業について

○事務局は、令和7年度に実施した図書館事業について、説明した。

(委員)「みきデジタルアーカイブ」について、イメージがつかめない。もう少し具体的に説明してほしい。

(事務局)「みきデジタルアーカイブ」は、電子書籍のようにページめくりの機能はなく、撮影した画像を1枚ずつ、紙芝居形式で順に並べて公開している。

(事務局) パワーポイントで見るような感じで、資料で写っている状態がそのままインターネット上に公開される。

(委員) これはすべて図書館で撮影されているのか。

(事務局) 図書館で一枚ずつスキャナーに取り込み、WEB上に公開するという形である。

(事務局)「みきデジタルアーカイブ」で公開したい資料は他にも多くあるが、著作権の問題があり難航している。例えば、『三木の祭り』という三木市観光協会が発行している資料を公開したいが、著作権協会の見解では、観光協会に了解が取れても資料の写真に写っている人にも了解がいるとのことで、それをクリアするのは難しい。また、現在公開している『郷土のものがたり』や『伝承の里みき』についても、図書館が発行した資料であるが、これを編集した郷土史家のご家族にも了解をいただいたところである。

(委員) このように資料を残していくというのは、素晴らしい試みで

ある。

(委員) 「15cmチャレンジ」の15cmとは、何冊ぐらいの高さになるのか。

(事務局) 本の厚みによって違ってくる。15cmに満たないときは、少し厚めの小説などを並べておき、貸出冊数10冊以内で、親子で工夫して借りておられた。また、カウンターの前に青山図書館キャラクターのあおとくんを定規の代わりに使い、あおとくんの背より超えたら15cmというように工夫した。

(委員) 図書館アプリであるが、最初に図書館で利用登録をしないと使えない。図書館に来館しなくても使えると、若い世代が図書館に行くきっかけになるのではないか。

(事務局) 利用カードを作る際に身分証を提示していただき、確認をした上で図書館アプリが使用できる仕組みである。電子申請システムを活用して仮カードを作成できる図書館もあるが、今のところ三木市の図書館システムやアプリではこの方法になる。

(委員) セキュリティを考慮してのことか。一旦図書館で登録をしたほうが安全であると思う。

(事務局) この図書館アプリはアプリ内だけで情報が完結しており、LINE（ライン）のように双方向でのやり取りができないようになっている。利用カード内の情報はアプリとは結び付いておらず、図書館内のシステムで守られるため、より安全なものを選択した。

(委員) マイブック機能について、読んだ本が簡単に調べられたら良い。

(委員) 自分が過去に借りた本が分かれば嬉しい。

日程第2 協議事項 令和8年度図書館事業について

○事務局は、令和8年度の図書館事業内容について、資料1のとおり説明した。

(事務局) 令和8年度は、本年度の図書館システム更新等大きな事業を抱えておらず、基本的には今までの事業を継続して行っていく。利用者の動向や様々な状況を調査しながら利用しやすい図書館を目指したいと考えている。

(委員) かなり多くのイベント開催数であるが、他の市町村の図書館と比較して多いのか。また、比較したデータはあるのか。

(事務局) データとしては持ち合わせていないが、非常に多い方であると思う。ただし、図書館単独で行っている事業に加え、図書館ボランティア主催の事業も含まれている。そういった意味では非常に市民活動に支えられている感はある。

(事務局) 三木市はボランティアとの関係が非常に密であり、活動も活発である。ボランティアとの協同や、関西国際大学など関連機関との連携によって、これだけ多くのイベントができていると思う。

(事務局) 市内公民館も活発に活動しているが、図書館も同様に多くのイベントを実施していると感じる。それは図書館だけでできることではなく、市民の皆様の協力やご意見をいただきながらのことであり、非常に良い活動ができていると思う。

(委員) そのとおりである。

(委員) ボランティアの立場からの意見であるが、他の市では自分達で企画するのが難しいところが多いと聞く。三木市では、ボランティア側から「これがしたい」と図書館に相談をすれば、賛成し協力してくれる。そういった面でボランティア活動がやりやすい。また反対に、図書館からイベントの提案があれば一緒に企画

し実施しているのです、イベントの数が多くなっているのだと思う。

(事務局) 三木市のボランティアは企画力が高い。ボランティアの方から企画の提案があるのでありがたい。

(委員) 以前調べ物があって他の図書館に行った際、職員の対応が親切でないと感じた。それと比較して三木市立図書館の対応は素晴らしい。利用者に対する姿勢が、他の図書館とは違うのか。

(事務局) 職員一人一人が、利用者の知る権利を保障することを大切にしており、求められる資料を必ず提供する、そういった姿勢が普段の対応に現れているのだと思う。

(事務局) 三木市立図書館に所蔵がない本も、全国の図書館の所蔵を調べて提供している。

(事務局) 全国の図書館の蔵書を調べるデータベースがあり、そのようなツールを使いこなすのも図書館員の専門性である。

(委員) 久しぶりに中央図書館に来たら、椅子にカラフルでかわいい座布団が置いてあったが、誰かのアイデアか。

(事務局) 9月の図書館システム更新に伴う長期休館時に、以前置いていた物と入れ替えをした。気持ちよく利用していただきたい。

(委員) 70歳代以上の利用が一番多いということであるが、高齢の方が杖を持ってきた際に、図書館や市役所に杖置きが少ないという声を聞いたことがある。杖置きがもっとあれば、高齢者や体が不自由な方もより安心して図書館を利用できるのではないか。地域の人々の交流の場として、より活用できるサービスとして検討していただきたい。

(事務局) 杖置きというのは、貸出用の杖を置くということか。または、フックのようなものを置くイメージか。

(委員) 要支援や要介護の方になると、足が不自由になり杖を使用される方が多いが、杖を持ってきても掛ける所がないので、初めから持ってこないという声をよく聞く。図書館で杖を掛ける所を増やしていただければ安心して利用できると思う。

(事務局) 受付カウンターや、選挙の投票所でよく見かける。

(委員) 杖置きの数を増やしていただくことで、高齢者や支援の必要な方が利用しやすくなる。検討いただきたい。

(事務局) 今後の課題として、検討する。

(委員) そのようなニーズがある方のご意見を伺いながら、今後も図書館サービスを進めていただけたらと思う。

日程第3 協議事項 その他

(委員) 私たちのボランティアグループ「みきおはなし会*絵本の森」が、結成35年で記念誌を発行した。毎月の読み聞かせ時に発行している「月刊絵本の森」をまとめたものと、これまでの主な活動を記録としてまとめたもので、皆さんに見ていただきたい。

(委員) この記念誌こそ、デジタルアーカイブにしてはどうか。

(事務局) 絵本の表紙にはそれぞれ著作権があるため、難しい。

閉 会

会長が、令和7年度第2回三木市立図書館協議会の閉会を宣言した。